

うっしっしいー情報2017

11月市



豊岡農業改良普及センター

11月8日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が96万2千円、雌が90万4千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	10	0.871	820,260	8	0.818	762,480	18	794,580
篠山	11	0.983	941,662	2	0.902	838,620	13	925,809
丹波	17	0.928	947,922	14	0.867	816,634	31	888,631
朝来	1	0.959	964,440	4	0.809	890,190	5	905,040
播磨	14	0.970	965,443	9	0.838	765,840	23	887,337
美方郡	76	0.972	977,883	58	0.863	968,332	134	973,749
豊岡	15	0.916	916,200	14	0.859	872,254	29	894,985
養父	31	1.012	1,014,503	19	0.860	935,962	50	984,658
摂津・神戸	7	0.912	960,120	7	0.858	881,589	14	920,854
県北C	4	0.848	865,350	-	-	-	4	865,350
市場全体	186	0.960	961,560	135	0.857	903,648	321	937,204

11月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	42	0.988	991,877	38	0.877	961,882	80	977,630
2	丸宮土井	38	0.964	1,003,235	17	0.841	876,198	55	963,969
3	照忠土井	46	0.953	958,782	36	0.855	928,170	82	945,342
	総計	186	0.960	961,560	135	0.857	903,648	321	937,204
4	芳山土井	30	0.953	913,824	20	0.886	920,916	50	916,661
5	千代藤土井	9	0.926	926,880	9	0.842	804,240	18	865,560

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A+	A	A	B	A	A+++
2	丸宮土井	B	B	A+	A++	A+	A++
3	照忠土井	B	A+++	A	A+	A+++	A+
4	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A+
5	千代藤土井	A	A+++	D	A+	A++	A++

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成29年7月現在)

粗飼料（ストロー類）の採食性

〇はじめに

繁殖和牛用の粗飼料は、かつては、稲わら、畦草、自給のイタリアンライグラスやソルゴーが中心でした。現在は、頭数規模の拡大とともに市販のストロー類の利用が増えています。ストロー類とは、種子や穀類を収穫した残さで、粗タンパク質が低く、繊維含量が高い飼料特性を持っています。エネルギーが低く栄養補給という意味では、乾草に劣ります。ただ、価格が安いことと飽食させても太らないという特性を利用して、乾物充足率を満足させつつ、分娩前の牛の過肥を避けるために使われることもあります。

〇ストロー類の種類

稲わら：国産、輸入で飼料品質に大きな変動があります。収集する条件が整えば、地域で調達できる貴重な粗飼料。

イタリアン：イタリアンストローといわれているもののほとんどは、永年性牧草ペレニアルライグラス（以下、ライグラス）のストローです。

フェスク：フェスクと呼ばれているのは主にトールフェスクのストロー。エンドファイトと呼ばれる内生菌の毒素で牛が中毒症状を起こす事例がありました。現在では、毒素（エンドファイト）を産生しない品種が開発されています。

バミューダグラス：暖地型牧草で、北米の南部では、牧草、芝生、堤の浸食防止に利用されています。栽培面積の多いコスタルバミューダは、種子はできずにシバの様にランナーで繁殖し、草丈は40cm程度のため放牧利用が主です。

ジャイアントバミューダと呼ばれる品種は、種子で繁殖し、草丈が80cm程度で、乾草利用に適しています。

ウィート：小麦わら。肥育農家で稲わらの代替として使用される事例が多く、稲わらよりTDN、採食量が低いものです。

〇ストロー類の採食性

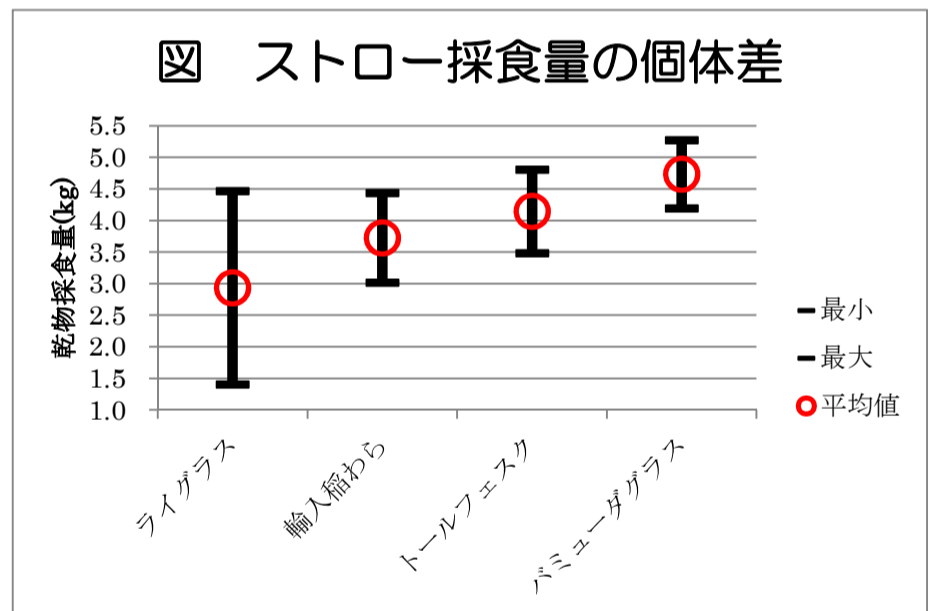
但馬牛4頭に補助飼料（配合飼料、ハイキューブ、ビートパルプを各1kg）を給与した条件で、ストロー類を自由に採食させた試験を行いました。結果、採食量は、バミューダグラス>フェスク>輸入稲わら>ライグラスの順でした（表1）。

但馬牛（体重400kg）維持期の粗飼料の必要量は5kg~5.5kgが推奨されています。

バミューダグラスは、補助粗飼料なしでも必要量を充足するくらいたくさん食べました。補助粗飼料を加味すると、すべてのストローで必要量は充足しました。しかし、ライグラスは、他のストロー類と比較して採食量の個体差が大きくなりました（図）。

表1 ストロー類の採食量

草種	現物採食量 (kg)	補助粗飼料を
		加味した採食量(kg)
ライグラス	3.3	5.3
輸入稲わら	4.3	6.3
フェスク	4.7	6.7
バミューダグラス	5.2	7.2



〇冬場ならどうなるか？

先月の牛便りで、気温18~25℃に比べて、気温5℃を下回るときは30%養分要求量が増えることを説明しました。この試験結果を冬場に当てはめてみると、ライグラスは養分充足率94%と牛の養分要求量を下回ってしまいました（表2）。ライグラスで採食量が低かった牛は、さらに深刻で、養分充足率は70%となってしまいます。これでは、この牛は痩せてしまったり、胎児の栄養状態の低下、分娩後の発情再帰の遅延等の深刻な問題が予想されます。

表2 ストロー類の気温別養分充足率

草種	全飼料の採食したTDN (kg)	気温18~25℃の養分充足率 (%)	気温5℃を下回るときの養分充足率 (%)
	ライグラス	3.4	122
ライグラスで採食量が低かった牛	2.6	92	70
輸入稲わら	3.6	129	99
トールフェスク	3.8	138	106
バミューダグラス	4.4	157	121

〇対策は

この試験結果から、ストロー類採食量の個体差の大きさがうかがえます。採食量は、畜産農家自らがストロー類の品質を判断する上で、一番大切な項目であると思います。もう一度、粗飼料全体の採食量をチェックして、必要量の5kg~5.5kgを食べない牛がないかどうか確かめることをおすすめします。そして、牛が食べる草、食べられる草を必ず補給するようにしましょう。